

10.ポルトガルパビリオン 2000



ポルトガルパビリオン 2000 は、ハノーバー国際万博の時に、アルヴァロシザによって建築され、その後、コインブラへ移された。

当時、世界的にエコな建築が流行しており、それを目指した建築であった。外壁には、ポルトガルの名産品であるコルクをふんだんに使い、断熱効果も兼ねた外壁材となっている。そのコルクの壁を近くで見るとよく知られたコルク材とは少し違い、木材のチップを固めたような形状をしていて、肌触りもかなり固いものであった。

またもう一つの特徴である、黄色と青のアズレージョが印象的だが、これもまたポルトガルの特徴的な材料であり、シザが国際的にポルトガルをアピールするためにデザインしたことを強く感じられた。

建物の形状は、平面的な形状に中庭空間を持ち、シザの特徴である、ヴァナキュラー建築という印象はあまり感じられなかった。しかし、建築材料などに工夫を凝らして、ポルトガルらしさを表現されている事から、変わった形のヴァナキュラー建築であると思った。